

宮若市と自動車産業

始まりはトヨタ自動車九州



TOYOTA

産業転換を軸に見る宮若市の歩み

かつて石炭産業により栄えた宮田町（現 宮若市）はエネルギー革命による炭鉱の閉山により、地域衰退の時代を経験しました。

その後、トヨタ自動車九州（以下、トヨタ九州）の設立を契機に自動車関連企業の集積が進んでいきました。

2006年には、農業が基幹産業である若宮町と合併。現在、自動車産業は基幹産業として宮若市を支えています。

~1970s

石炭産業の衰退



1970年代初頭まで、宮田町は筑豊炭田の一角として石炭産業に大きく依存していました。しかし、エネルギー革命（石炭から石油）の影響により炭鉱は次々と閉山。1976年、筑豊最後期まで操業していた貝島炭鉱（大之浦炭鉱）が閉山しました。

1991

トヨタ九州設立



中部に次ぐトヨタ国内第2の拠点として誕生しました。

2006

宮若市の誕生

宮田町と若宮町が合併し、宮若市が誕生しました。

2010

宮若市とトヨタ九州連携協力協定を締結

宮若市とトヨタ九州が、地域活性化・地域貢献に関する連携協力協定を締結し、取り組みの具体化、連携協力体制の強化が図られました。

▶ 自動車関連企業を惹きつける宮若市の魅力

1. 優れたアクセス

福岡県は日本有数の空・海の玄関口となっており、宮若市はそれらへの自動車アクセスも良好となっています。

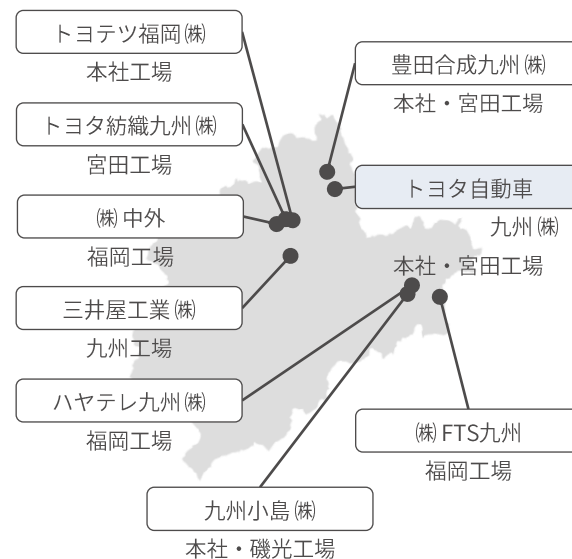


2. 企業立地を支える広大な土地

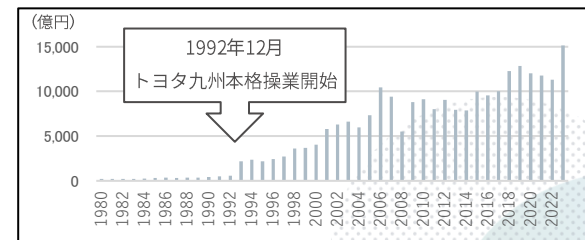
宮若市には、比較的まとまった土地を確保しやすく、企業の新設・拡張に適した環境があります。企業の多様なニーズに対応できる土地の優位性が、企業集積に繋がっています。

また、企業の集積地となることで連携・効率化が進み、地の利を生かした振興・好循環が生まれています。

▶ 自動車関連企業の集積地となった宮若市



▶ 宮若市の製造品出荷額の推移



▶ 宮若市の街並みの変化



宮若市とトヨタの取り組み

宮若市とトヨタが共に取り組んできた地域共生の取り組みの一部をご紹介します。

▶ ものづくり教室

▶ 『つく〜るキャンパス』

地域の小学生を対象にした体験型の教育プログラムです。トヨタ九州のものづくりの技術や精神を未来ある子どもたちに伝え、楽しくものづくりに触れあってもらえるよう、宮若市・宗像市・トヨタ九州の三者でものづくり体験教室の企画・運営を行っています。

からくりカーなどの制作を通じてものづくり技術を学べるほか、地域の歴史やコミュニケーションスキルを学ぶことができるプログラムです。



▶ 災害対策

宮若市、久留米市、みやま市、広川町、豊通マテリアル、あいおいニッセイ同和損害保険、福岡トヨタ自動車、トヨタ九州で「給電車*を活用した地域防災向上に関する連携協定」を締結し、災害発生時に各自治体所有の給電車搭載車両を活用しあう相互扶助ネットワークを構築しています。

*トヨタ/レクサス車の1500Wコンセント付き車両（HEV、PHEV、BEV、FCV）



▶ 『アフタースクール』

宮若市では、放課後に子どもたちの学習時間を確保し、学力向上や家庭学習の定着を図るための学習支援事業として『アフタースクール』を開催しています。その時間の中で、ものづくり教室を開催し、トヨタ九州のものづくりサークルのメンバーとともに、手作りハイブリッドカーを作成し、子どもたちに「科学の面白さ」「ものづくりの楽しさ」を伝えることに取り組んでいます。



▶ 環境保全・美化活動

環境クリーン作戦などの不法投棄防止のための清掃活動や毎月開催している犬鳴川河川公園・2000年公園の定期作業などの美化活動では、トヨタ九州もボランティアとして参加しています。お子さまを連れて参加される方も多く、楽しみながら作業を行っています。また、市の花でもある「ヒガンバナ」の球根を植えるイベントのほか、芋煮会などのイベントもあり、年間約400名以上のトヨタ九州の従業員が参加しています。



宮若市からみた自動車産業、トヨタとは？

市長の柴田様、広報や地域活性化に係る業務を統括されている課長のお二人に、自動車産業およびトヨタについてお話を伺いました。



■ 宮若市における自動車産業の役割、使命について教えてください。

柴田様：宮若市は、人口が2万6,000人を切るような小さな町ですが、ここにトヨタ九州が存在していただいていることは、本当にありがたいし、誇りでもあると思っています。技術とものづくりの精神で、自動車産業をけん引してくださり、またこれまで様々な地域貢献に携わってくださっていることに感謝しています。

若宮町*は農業が基幹産業、宮田町*は炭鉱中心に栄えていましたが、エネルギー転換で閉山した後、衰退の一途を辿ってました。トヨタ九州の進出によりサプライヤーさんも多数立地していただき、雇用が生まれたことで、町が再興しました。

*2006年2月に、若宮町と宮田町が合併し、宮若市となる。

■ 宮若市の自動車産業がここまで振興してきた背景について教えてください。

柴田様：まず、広大な用地がある、ということは大きかったと思います。また、宮若市がちょうど福岡都市圏と北九州都市圏の中央にあたり、九州縦貫道のインターチェンジが近いこともあって、地の利を生かした振興が進んだと考えています。スマートインターもでき、交通環境は良くなっていると思います。

現在、北部工業団地の造成を進めているので、より自動車産業を中心とした誘致ができればと考えています。

井川様：設備投資の額に応じて助成金を交付しており、これを活用して、ハヤテレ九州や九州小島が、自動車関連企業として進出されています。

柴田様：自動車産業の恩恵が大きいことは、行政としては当然認識していますが、まだまだ市民への浸透は薄いと感じています。トヨタ九州と宮若市が一緒になり、まちづくりを頑張っている、ということをしっかario伝えしていきたいと思っています。

トヨタ九州主催のサンクスフェスタというお祭りは、いつも賑わっており、市民もとても楽しみにしています。

またトヨタ九州には、ボランティアなどでも、市民と積極的に関わっていただいていますので、このよう

な活動をぜひ市民に認知いただけるよう、私たちも努力してまいります。

齊藤様：サンクスフェスタでは、「ものづくり教室」という子ども向けの企画もあり、子どもたちにもものづくりを学び経験する機会を与えています。

柴田様：子どもたちに、「宮若市の自慢は何ですか？」と聞くと、一番に「トヨタ自動車九州」と言ってくれます。



■ トヨタ九州の発足と、その後の取り組みは、市にどのような影響を与えていますか？

柴田様：トヨタ九州の従業員の皆さんには、市民団体とともに、2000年公園や犬鳴川河川公園での彼岸花の植栽や除草作業などのお手伝いもしていただいています。ここでは、従業員の皆さんのご家族も一緒に参加していただき、地域と新たな交流も生まれています。

井川様：さらに、犬鳴川河川公園では春のさくらウィークや秋のヒガンバナまつり、芋煮会というイベントを行っており、そこにトヨタ九州の従業員の皆さんが多数、ボランティアとして応援に来てくださっています。

宮若市からみた自動車産業、トヨタとは？

市長の柴田様、広報や地域活性化に係る業務を統括されている課長のお二人に、自動車産業およびトヨタについてお話を伺いました。

柴田様：親子で参加いただいている姿は素晴らしく、また嬉しいなと思います。宮若市外に住まれる従業員のご家族も来られて、他の参加者とのつながりを持って、宮若市を見ていただけるのはありがたいと思いますし、今後も継続したいと考えています。

また、宮若市の「環境クリーン作戦」という取り組みにもご協力いただいています。「不法投棄を許さない環境づくり」を目指したのですが、地元の高齢化も進み、苦勞しているところです。そこにトヨタ九州はじめ、サプライヤー企業の皆さまにも参加いただき、大変助かっています。

齊藤様：我々が就職する頃、バブルと就職氷河期の狭間でしたが、優秀な同級生の就職先が、地元にはなかなかなく、彼らはやはり東京などに出ていってしまう、という状況でした。そのような中、トヨタ九州ができ、サプライヤーもどんどん増えることで、地元に残れるチャンスが増えたのはありがたいです。高齢者が独居にならずにすむ、子どもたちも祖父母に子育ての一部を任せられるという意味では、やはり地元企業がたくさんあり、働く場所があるというのはとても良いことだと思います。

■ 宮若市における自動車産業の更なる発展に向けた課題、そしてトヨタ九州・トヨタに期待することは何でしょうか？

柴田様：雇用の機会が多いことは、大変ありがたいことですが、この宮若市に住んでもらえるよう、我々も努力をしていきたいと思いますし、トヨタ九州、関連企業の皆さん含め、一緒に連携していきたいと考えています。

全国的に人口が減少している中、この地域は公共交通の課題が大きいと思います。バスの運転手が減ることで減便や廃線も生じており、大きな転換期を迎えていると感じています。昨今、自動運転などの技術が進んでいますが、宮若市も、そのような分野に取り組み、課題解決ができればと考えています。市民の福祉向上のために、しっかり取り組んでいきたいと思いますので、トヨタの皆さんのお力もぜひお借りしたいと思います。



齊藤様：情報発信という観点では、まだまだ地域の皆さんに伝えられていないと感じることがあります。笠松地域の環境対策会議という取り組みをトヨタ九州、宮若市、地元企業さんとで進めていますが、意外にその地域の方がご存じでない。情報を積極的に流していないと、地域の、特に年輩の方には伝わっていかないのだろうな、と感じています。

柴田様：先日、中京福岡県人会に参加させていただき、市のPRをするとともに、様々な参加者の方にご挨拶している中で、宮若市の名前が知られていないことを痛感しました。

やはり町や企業の魅力を、行政をあげてしっかり発信していくことが大事です。もっと住んでいただけるようなアピールをしていきたいですし、定住していただいて、持続可能なまちづくりをしていきたいと思っています。

トヨタ自動車株式会社

〒471-8571

愛知県豊田市トヨタ町1番地

<https://global.toyota/jp/>

TOYOTA